

【講演 2】房総の加曽利 E 式期前半の土器について

館 祐樹

はじめに

これまで房総における加曽利 E 式土器の細分は、ローマ数字（岡本・戸沢 1965）による細分が多く用いられており、ここでは、加曽利 E I 式（胴部の磨消縄文成立前）と E II 式（磨消縄文成立～吉井城山類型成立前）のキャリパー形土器を中心に房総の加曽利 E 式の前半として取り上げる。

加曽利 E I 式と加曽利 E II 式の細分については、昭和 40 年～昭和 42 年に加曽利北貝塚で行われた調査から、貝層を介して加曽利 E I 式から加曽利 E II 式の型式変化が示されている（堀越ほか 1977）。

加曽利 E I・II 式の細分については、「埼玉編年」（谷井ほか 1982）では E I 式を IX a・IX b・X、（XI 期を E I 直後～磨消懸垂文発生時期とし）E II 式（XII a・XII b）に細分している。

千葉県では 1970 年以降の大規模開発に伴う発掘調査により、中期集落が面的に明らかにされ、集落分析を行うにあたり、遺跡ごとに加曽利 E I・II 式の細分が行われている。

東・北長山野遺跡では、埼玉編年に対応させる形で 5 期に分類している（北長山野遺跡調査会 1990）。木更津市伊豆山台遺跡では、加曽利を E I（中峠～E I 古・新）、E II（古・中・新）段階に細分し、集落変遷を 3 期に分類している（上守ほか 2000）。上守は松戸市子和清水貝塚の集落変遷を検討するにあたり加曽利を E I（中峠～E I 古・新）、E II（古・中・新）段階に細分し、集落変遷を 4 期に分類している（上守 2005）。柏市小山台遺跡 B 区では、アラビア数字による細分が行われており、阿玉台 IV 式・勝坂式末期～E 1（古・新）、E 2（古・新）、E 2-3、E 3（古・中）の段階が相当すると考えられる（西川ほか 2019）（註 1）。

加曽利 E 式期前半の各期の型式内容について

加曽利 E I 式を口縁部文様の変遷から 3 段階、E II 式を胴部磨消し部の変遷から 2 段階に細分を行った。

加曽利 E I 式（古）段階 10a

把手を有し、口縁部には 1～2 本単位の隆帯によるクランク状・横 S 字状のモチーフが見られる。口縁部に縦位沈線を施すものも見られる。胴部には 2～3 本単位の直線と蛇行する沈線による懸垂文が施されるものがある。沈線によるものが多いが、隆帯によるものも見られる。地文の主体は縄文であり、撚糸地文のものは少ない。

加曽利 E I 式（中）段階 10b・10c

小型渦巻状の突起を有するものが多く、口縁部には隆帯による半渦巻状（古相）と渦巻状（新相）のものが見られ、棘状・剣先文が施されるものが多い。波状隆帯が施されるものも見られる。頸部無文帯を有するものが見られる。胴部懸垂文は、隆帯によるものは極めて少なく、沈線によるもの、また、懸垂文を施さないものも多い。地文は縄文によるものが主体となる。

加曽利 E I 式（新）段階 11a・b・c

口縁部は沈線による渦巻文で、長方形区画や長方形区画の一端が弧線化したもの、楕円区画等を区切っている。沈線により頸部を区画するものも見られるが、頸部内に縄文が残るものがある。胴部には 2～3 本単位の直線と蛇行する沈線による懸垂文が施される。

加曽利 E II 式（古）段階 12a

口縁部は前段階に続き、渦巻文により長方形や楕円の区画を区切っている。胴部は 2～3 本単位の沈線間の縄文を磨り消している。連弧文系土器・曾利式土器・大木式土器が伴うようになる。

加曽利 E II 式（新）段階 12b

波状口縁のものが見られる。口縁部は長方形区画が崩れ、楕円区画と渦巻文が入組むようになる。胴部は懸垂磨消帯が確立する。胴部に逆 U 字状の区画を施す土器も見られる。新相としては、口縁部の渦巻が弱く大型化し、楕円区画が主となる。胴部の磨消帯の幅が広くなる傾向があり、土器自体も大型化する傾向がみられる。口縁部文様帯が形骸化し、口縁部を沈線により区画するのみのものや、大木 8 b 式の影響を受け胴部に隆帯による渦巻文を施す土器も見られる。

註

(1) 加曽利 E 1（新）を山形編年（山形 1997）による、加曽利 E 式最初頭と加曽利 E 2 式の中間に置かれた東京都宇津木台遺跡 D 地区 SI59、E 2（古）を加曽利 E 2 式前半に置かれた神奈川県当麻遺跡 18 号住居跡、E 2（新）を E 2 式後半に置かれた神奈川県川尻遺跡 J18 号住居跡、加曽利 E 2-3 を神奈川県当麻遺跡 72 号住居跡の各段階に併行させている。また、E 3（古）式段階を長山編年による飯積原山遺跡 E 3（古）段階、E 3（中）式段階を飯積原山遺跡 E 3（中）段階に併行させている。

参考文献

- 芹沢長介 1962 「千葉県千葉市加曽利貝塚」『日本考古学年報』11
- 岡本 勇 1963 「横須賀市吉井城山第 1 貝塚の土器（二）」『横須賀市博物館研究報告』7
- 岡本 勇・戸沢充則 1965 「縄文文化の発展と地域性 3 関東」『日本の考古学』II 河出書房新社
- 堀越正行ほか 1977 「第 7 章 加曽利北貝塚の土器」『加曽利北貝塚』
- 谷井 彪ほか 1982 「縄文時代中期土器群の再編」『研究紀要』財団法人埼玉県埋蔵文化財調査調査事業団
- 北長山野遺跡調査会 1990 『東・北長山野遺跡』
- 上守秀明ほか 2000 「伊豆山台遺跡」『木更津市文化財調査集報』4
- 縄文時代研究プロジェクトチーム「神奈川における縄文時代文化の変遷 VI—中期後葉期 加曽利 E 式土器文化期の様相 その 2 土器編年案—」『研究紀要』7 財団法人かながわ考古学財団
- 上守秀明 2005 「下総台地における中期中葉から後葉期の拠点集落の様相—松戸市子と清水貝塚の空間構成から導かれる特性の予察—」『地域と文化の考古学 I』明治大学文学部考古学研究室
- 西川博孝ほか 2019 「柏市小山台遺跡 B 区 縄文時代以降編」『柏北部東地区埋蔵文化財発掘調査報告書 15』調査報告第 775 集

挿図引用文献

千葉縄文研究会編 2007 『千葉縄文研究 別冊 1 千葉における中期編年基礎資料 土器集成 1』

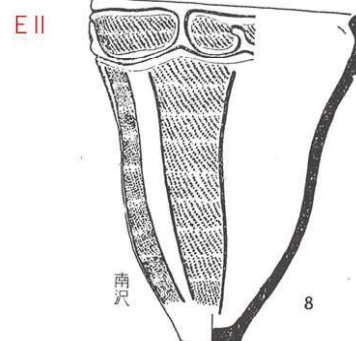
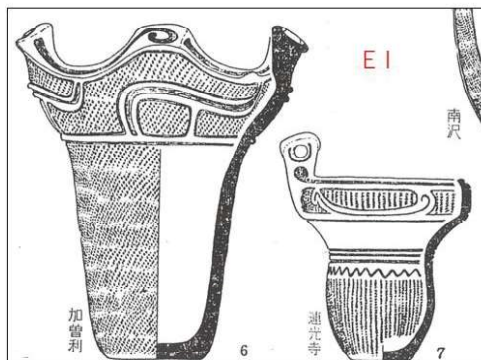
房総の加曽利E式期前半の土器について

(公財)千葉県教育振興財団
文化財センター 館 祐樹



ローマ数字(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ)の細分について

日本の考古学Ⅱ



(岡本勇・戸沢元則 1965 「3関東」『日本の考古学Ⅱ 縄文時代』より)

- 加曽利貝塚（ローマ数字）
- 埼玉編年
- 旧横芝町 東・北長山野遺跡（埼玉編年）
- 松戸市 子和清水貝塚（ローマ数字）
- 木更津市 伊豆山台遺跡（ローマ数字）
- 柏市 小山台遺跡B区（アラビア数字）
- 房総の傾向とローマ数字とアラビア数字との対応

加曽利貝塚総括報告書

勝坂式・阿玉台末/加曽利E I 初



加曽利E I 式



磨消以前

加曽利E II 式



磨消（連弧文・曾利Ⅱ式が伴う）

加曽利貝塚総括報告書	勝坂・阿玉台末 / 加曽利E I 初	E I	E II	E III	E IV									
ローマ数字(黒本ほか1965)		E I	E II	E III	E IV									
アラビア数字(山内1969)		E 1	E 2	E 3	E 4									
埼玉編年(谷井ほか1982)		IX a	IX b	X	XI	XII a	XII b	XIII	XIV					
新地平編年(黒尾ほか1995)		9c	10a	10b	10c	11a	11b	11c1	11c2	12a	12b	12c	13a	13b
実年代編 単位:年(黒尾2016)		20年	30年	30年	30年	30年	20年	20年	40年	80年	70年	50年	50年	50年

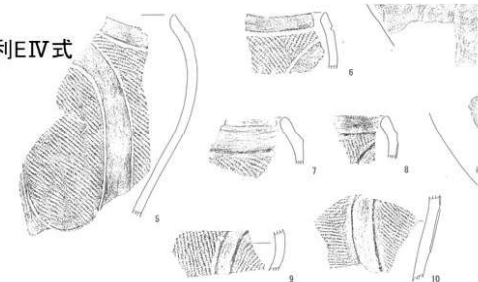
(大内2008)をもとに黒尾2016を加え作成

加曽利EⅢ式



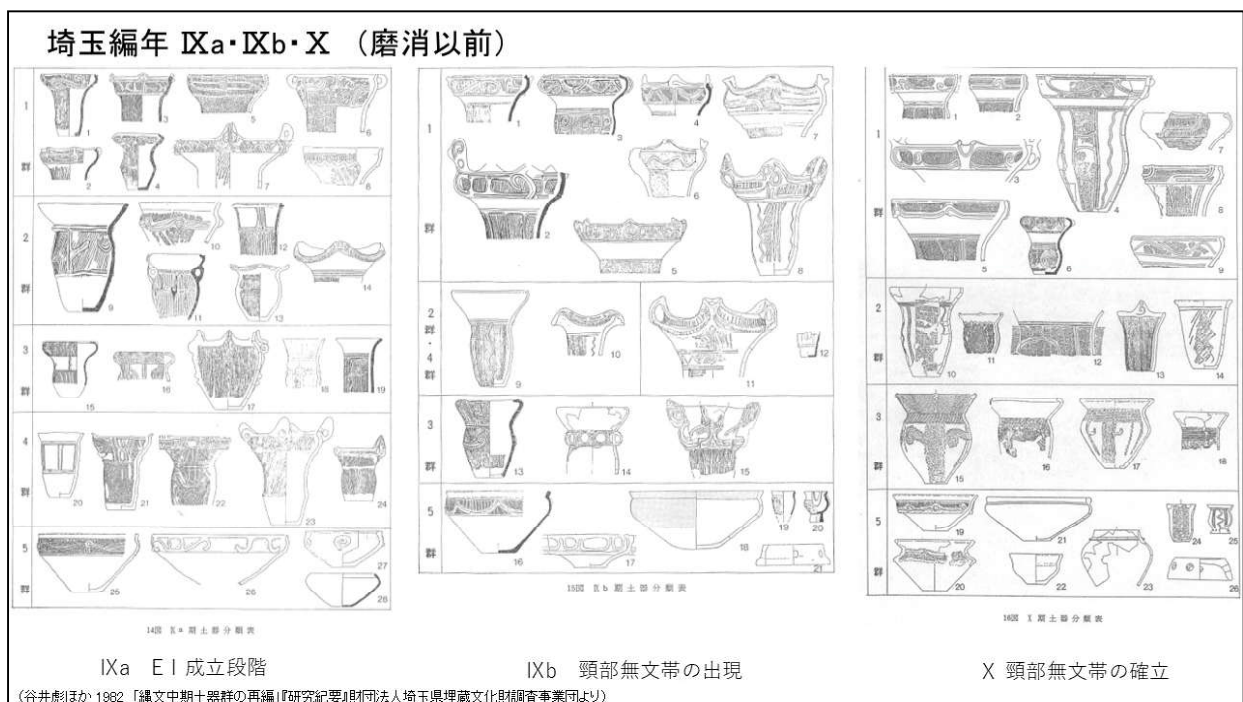
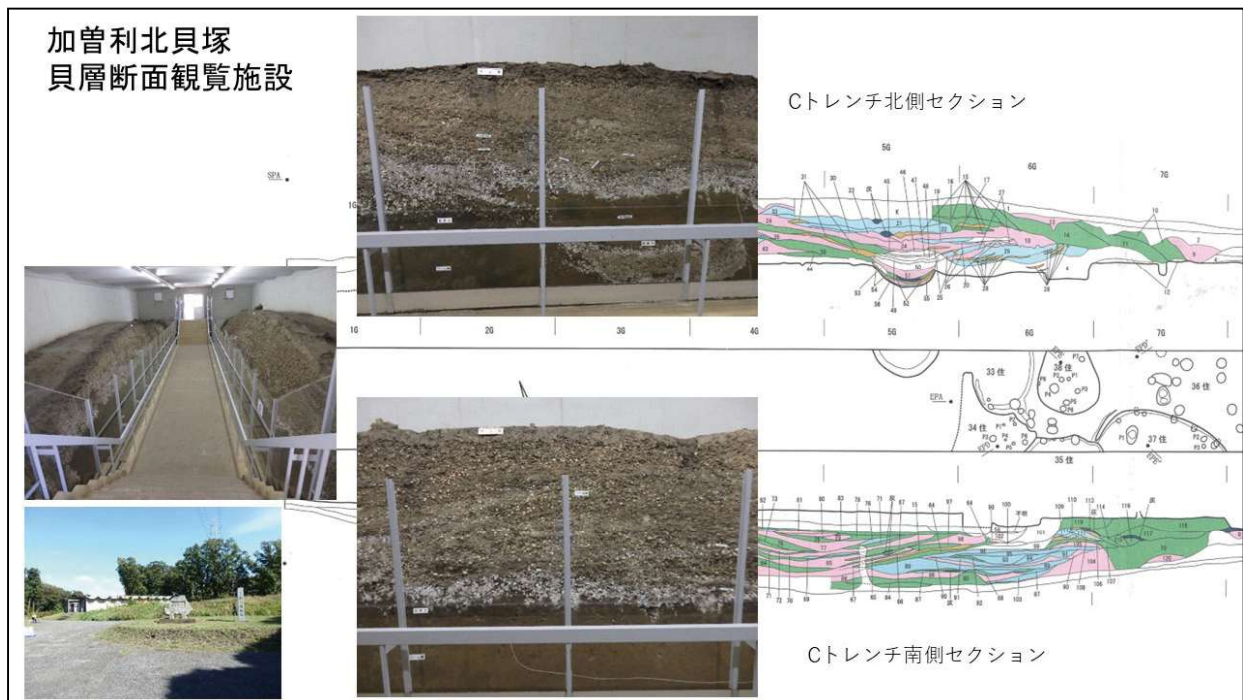
磨消(意匠充填系・横位連携弧線文が伴う)

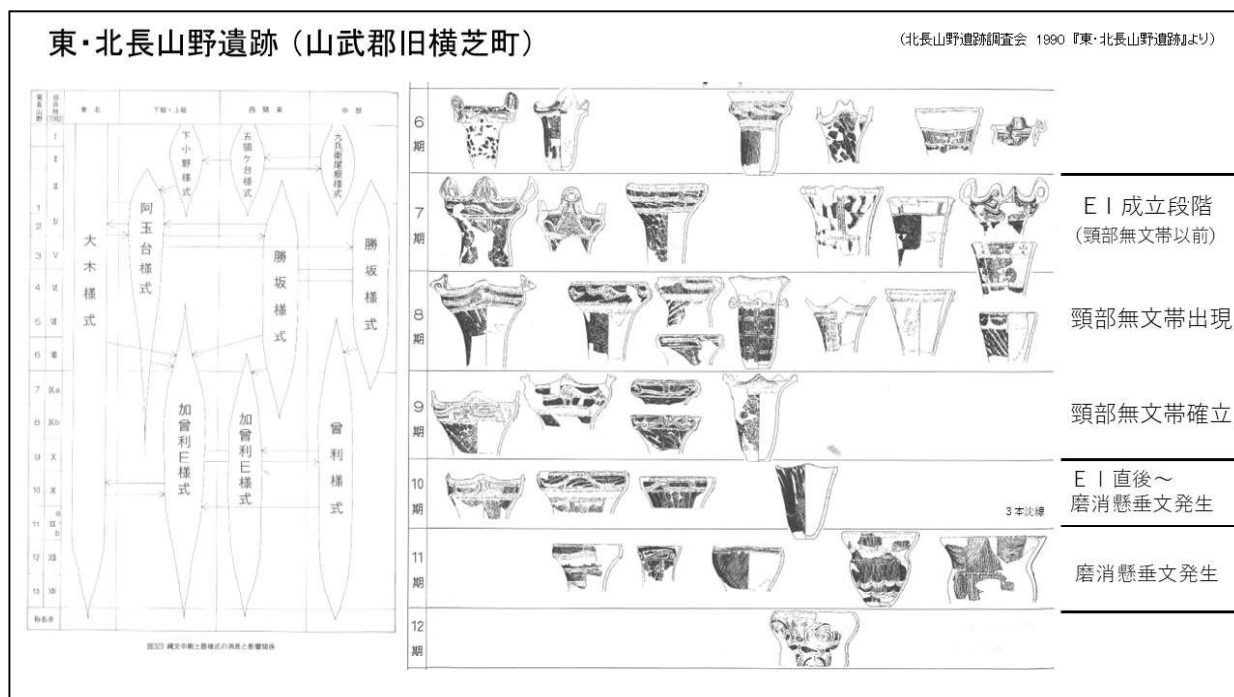
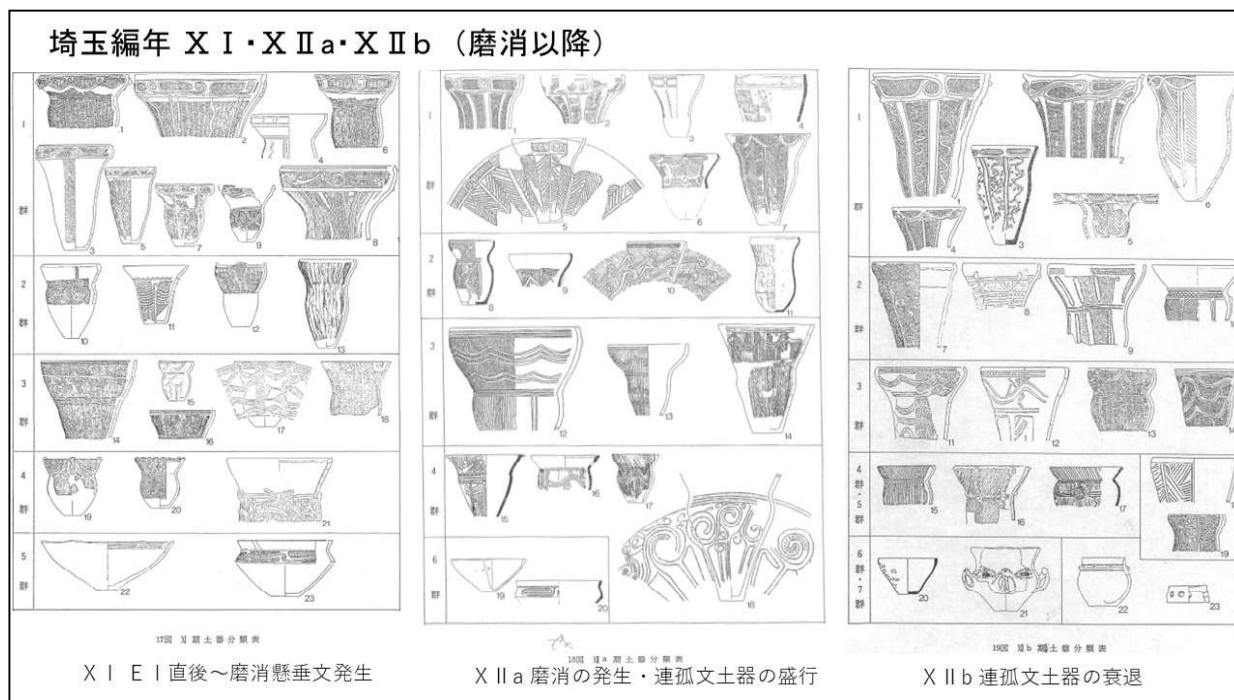
加曽利EⅣ式



(千葉市埋蔵文化財調査センター 2017 『史跡加曽利貝塚総括報告書』より)





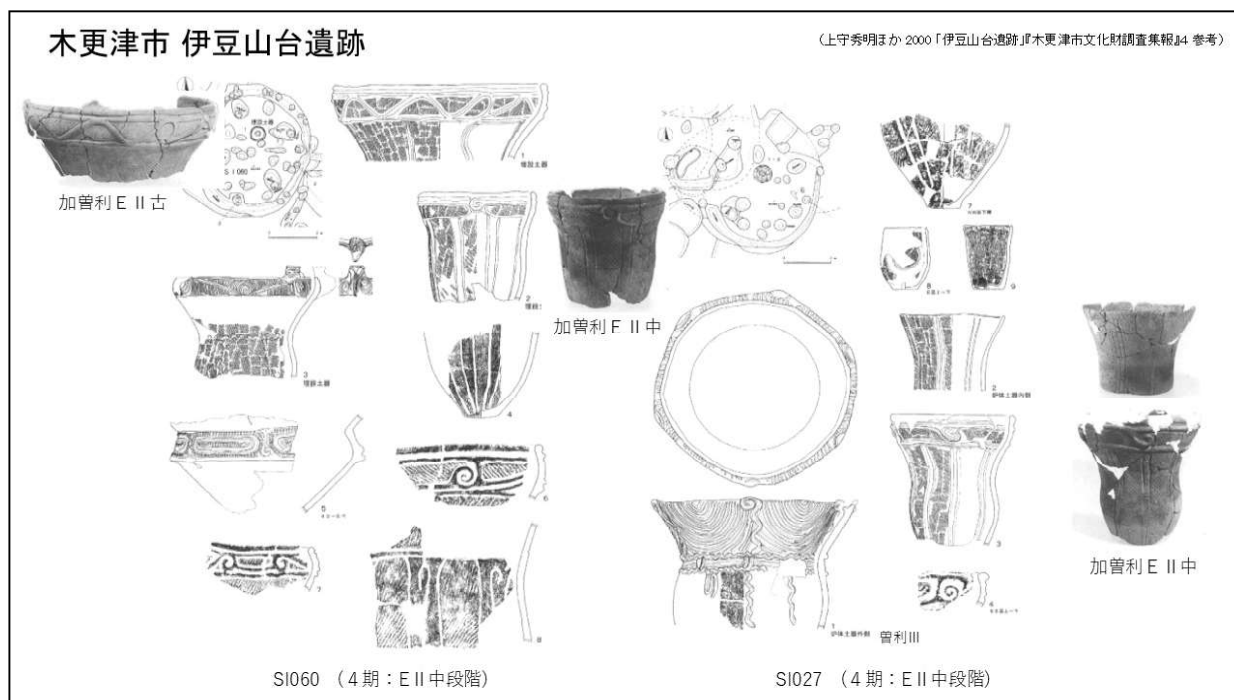


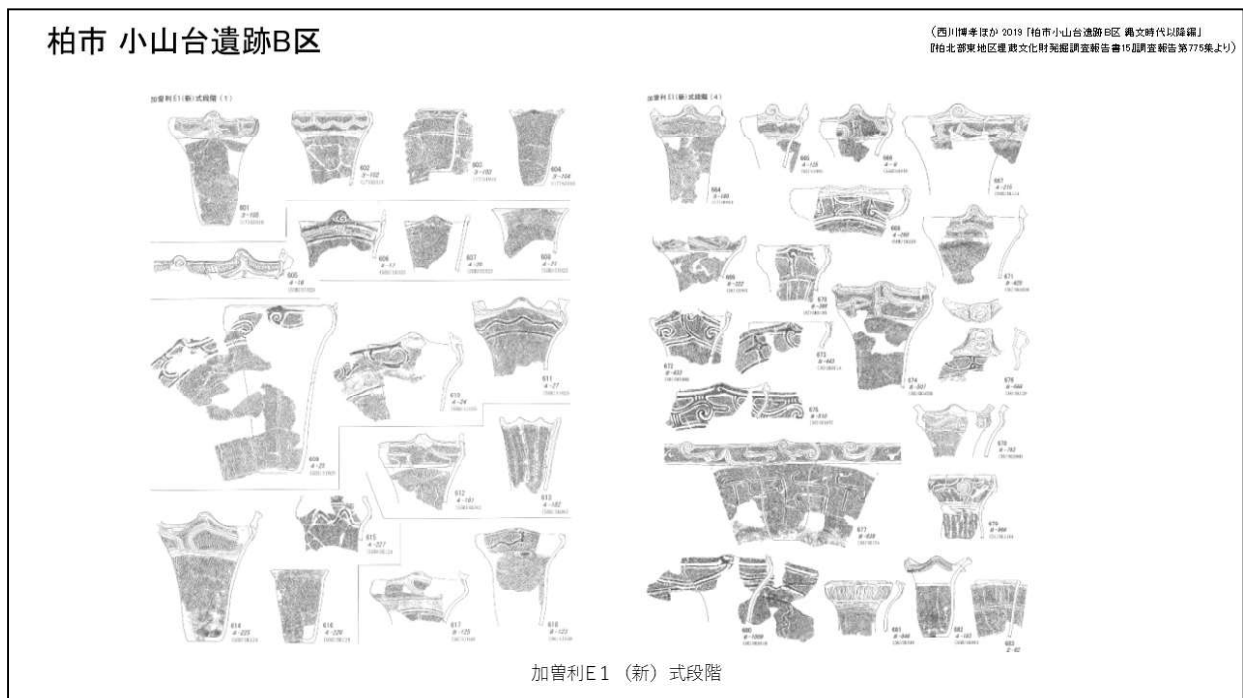
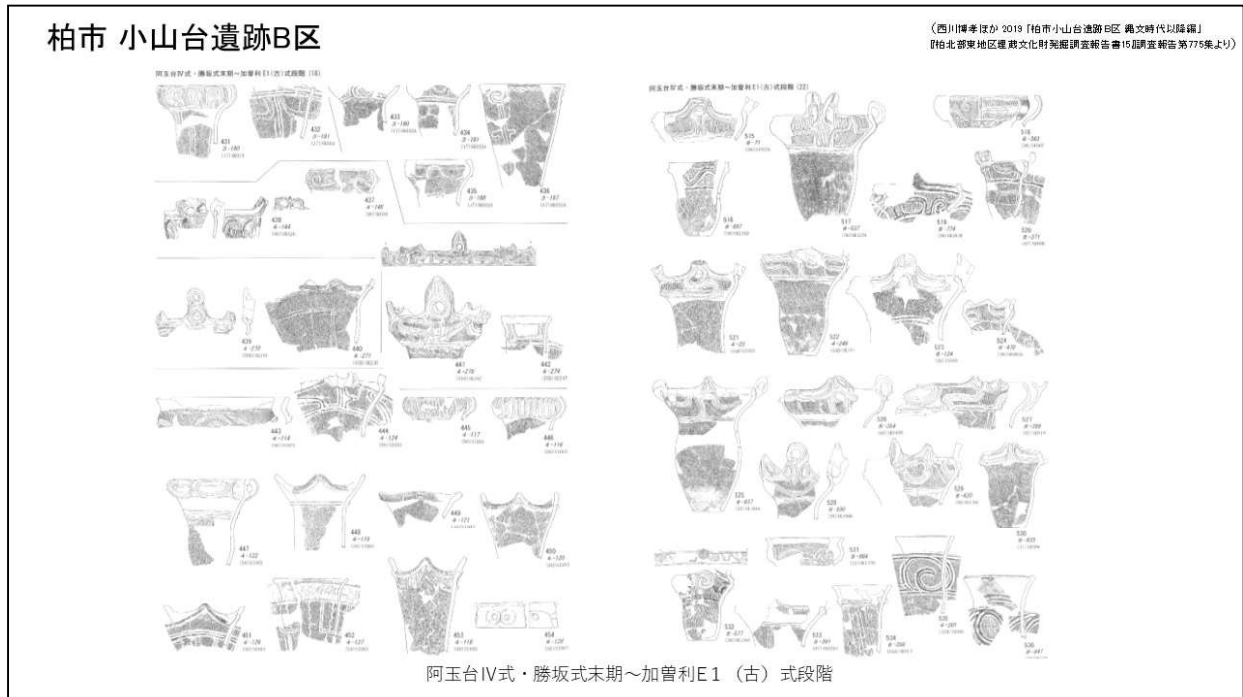
松戸市 子和清水貝塚（住居跡）

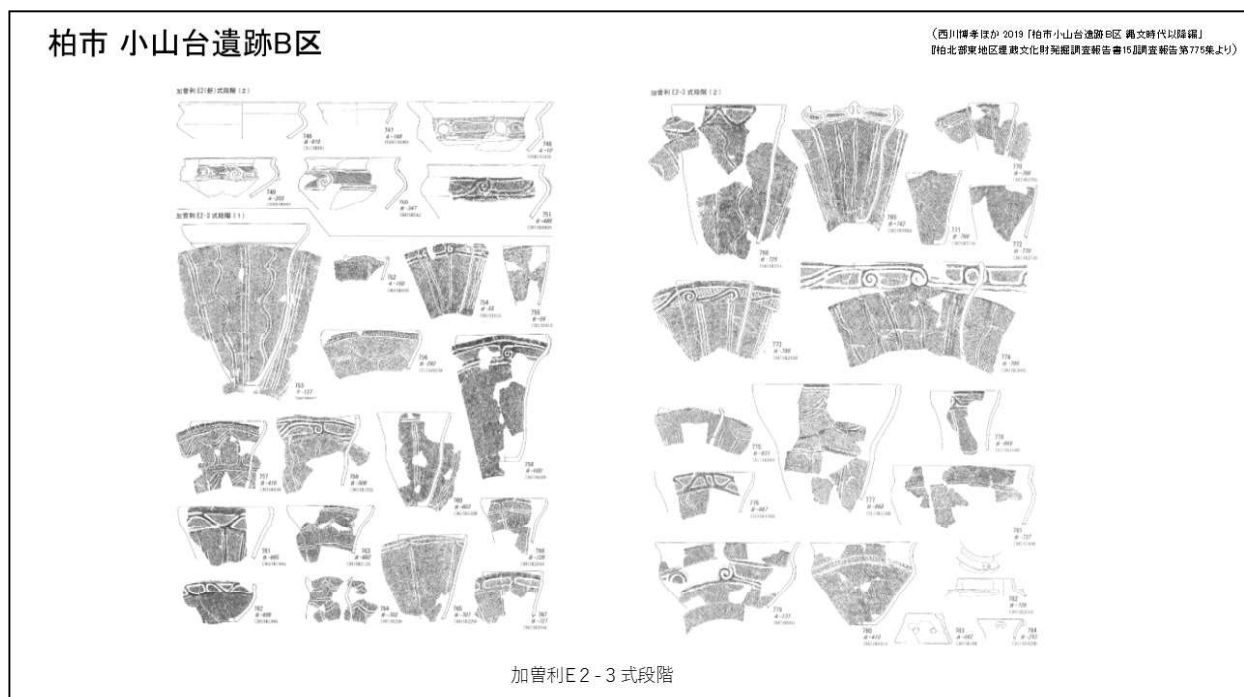
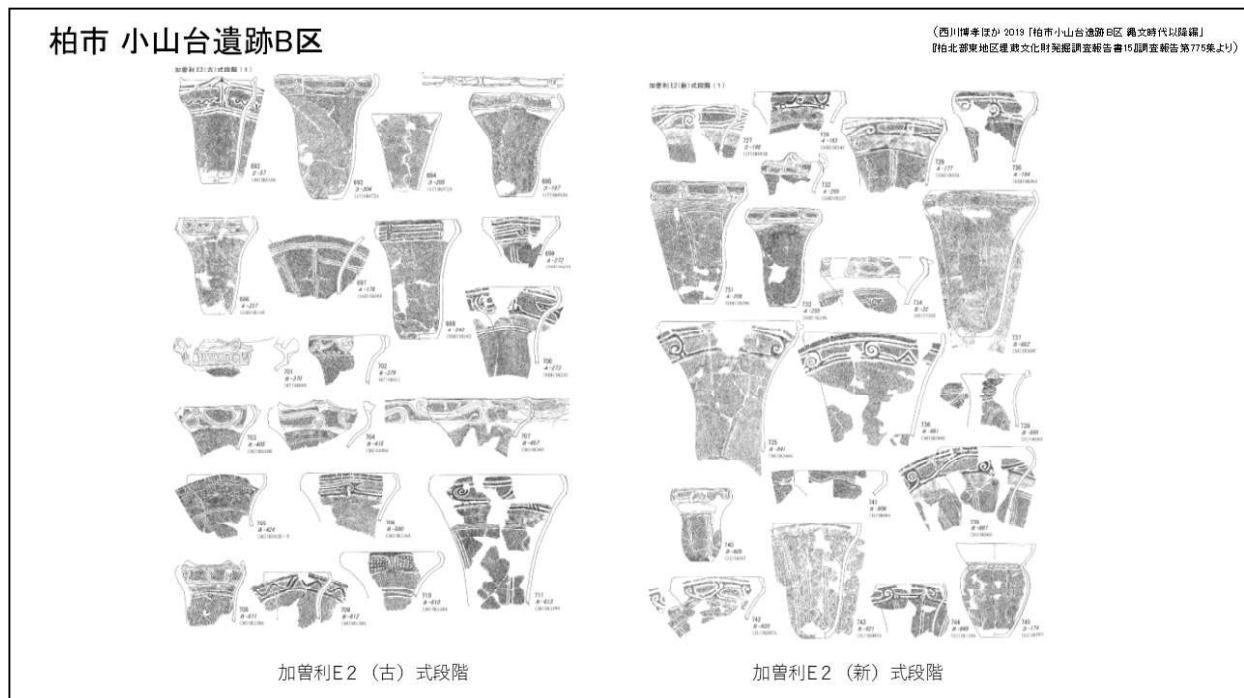
いわゆる中峠式 加曽利 E I 古			加曽利 E II 中
加曽利 E I 新			加曽利 E II 新
加曽利 E II 古		2b期：いわゆる中峠式、加曽利 E I 式古段階（大木式や曾利式の要素がとりこまれたものも含む） 3期：E I 新段階 口縁部文様帯の横位展開、胴部の縦位展開 4 a 期：E II 古段階 口縁部区画文が安定 磨消懸垂文未発達も含む 4 b 期：E II 中段階 口縁部区画文が崩れる傾向 磨消懸垂文が安定 5期：E II 新段階 口縁部区画が崩れ、下端の一次区画弱まる 磨消懸垂文が上端で連結 （上野秀明 2005「下総台地における中期中葉から後葉期の拠点集落の様相―松戸市子和清水貝塚の空間構成から導かれる特性の予察―」『地域と文化の考古学』より）	

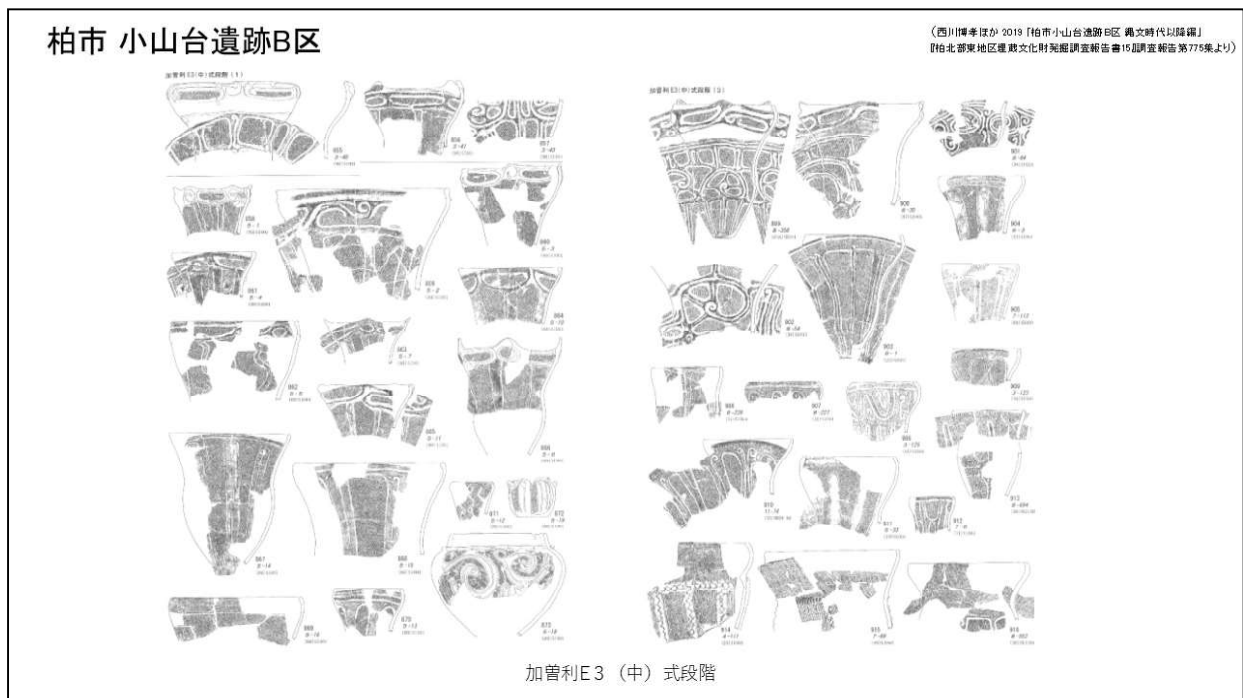
松戸市 子和清水貝塚（貯蔵穴）

いわゆる中峠式 加曽利 E I 古 馬高系			加曽利 E II 中
加曽利 E I 新			加曽利 E II 新
加曽利 E II 古		（上野秀明 2005「下総台地における中期中葉から後葉期の拠点集落の様相―松戸市子和清水貝塚の空間構成から導かれる特性の予察―」『地域と文化の考古学』より）	







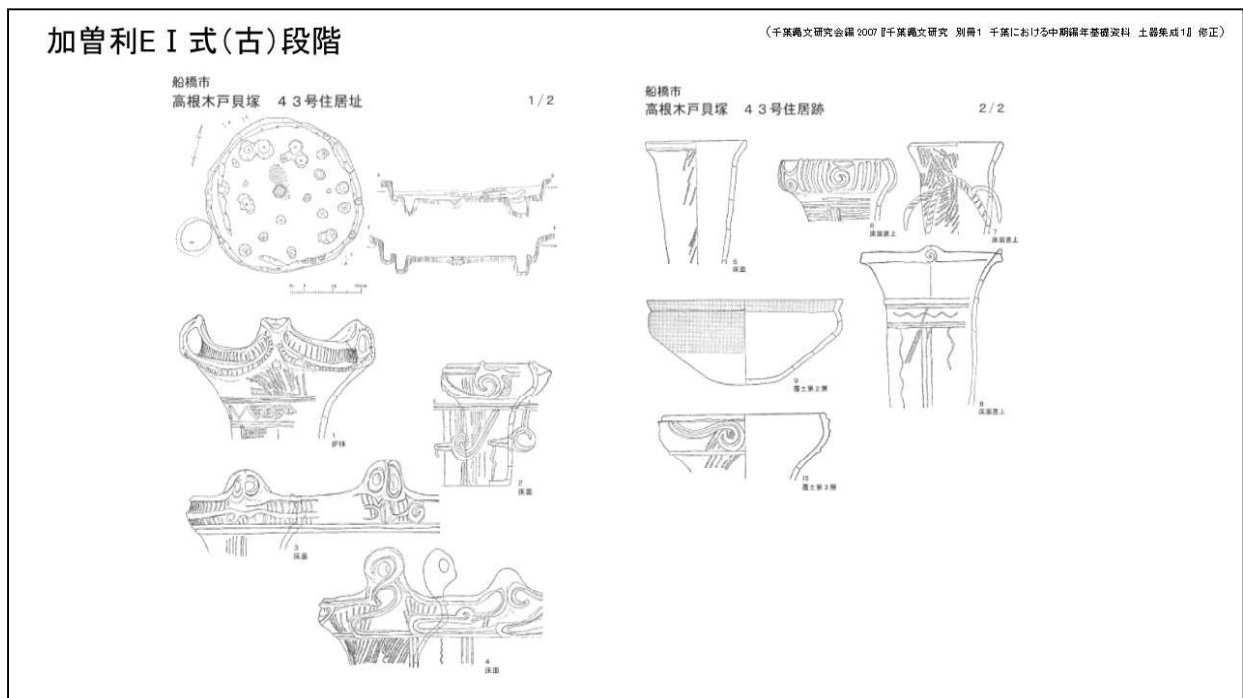
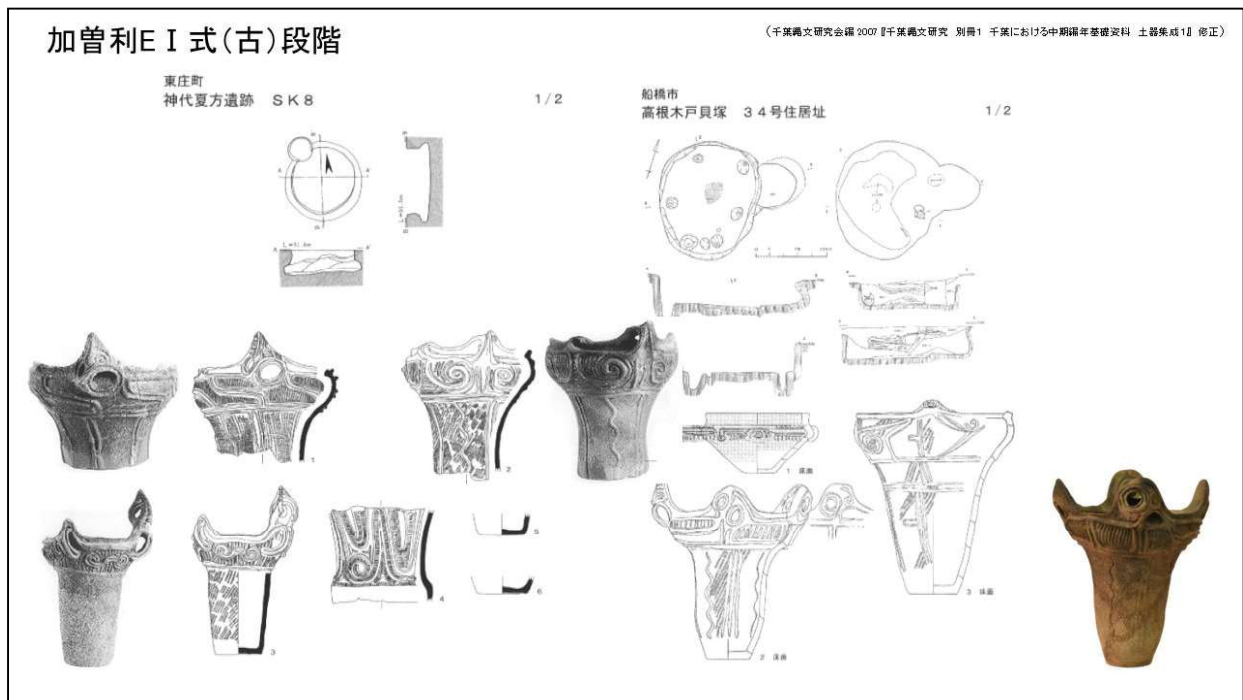


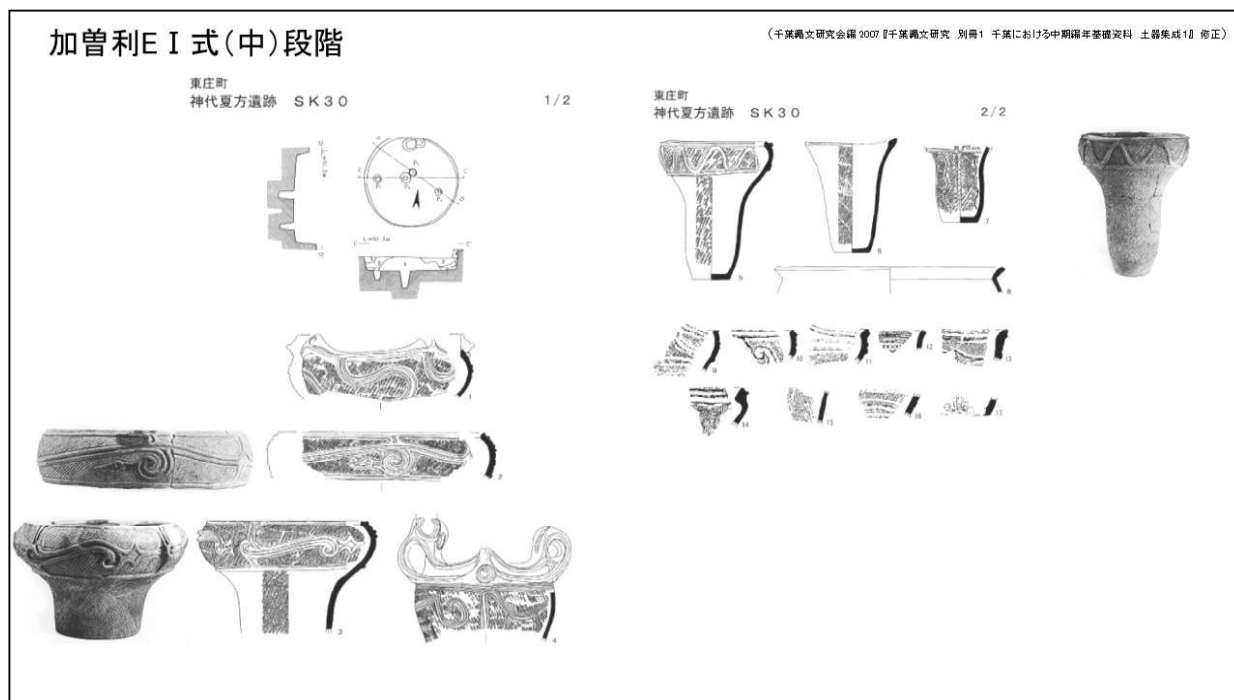
房総の加曽利E I について

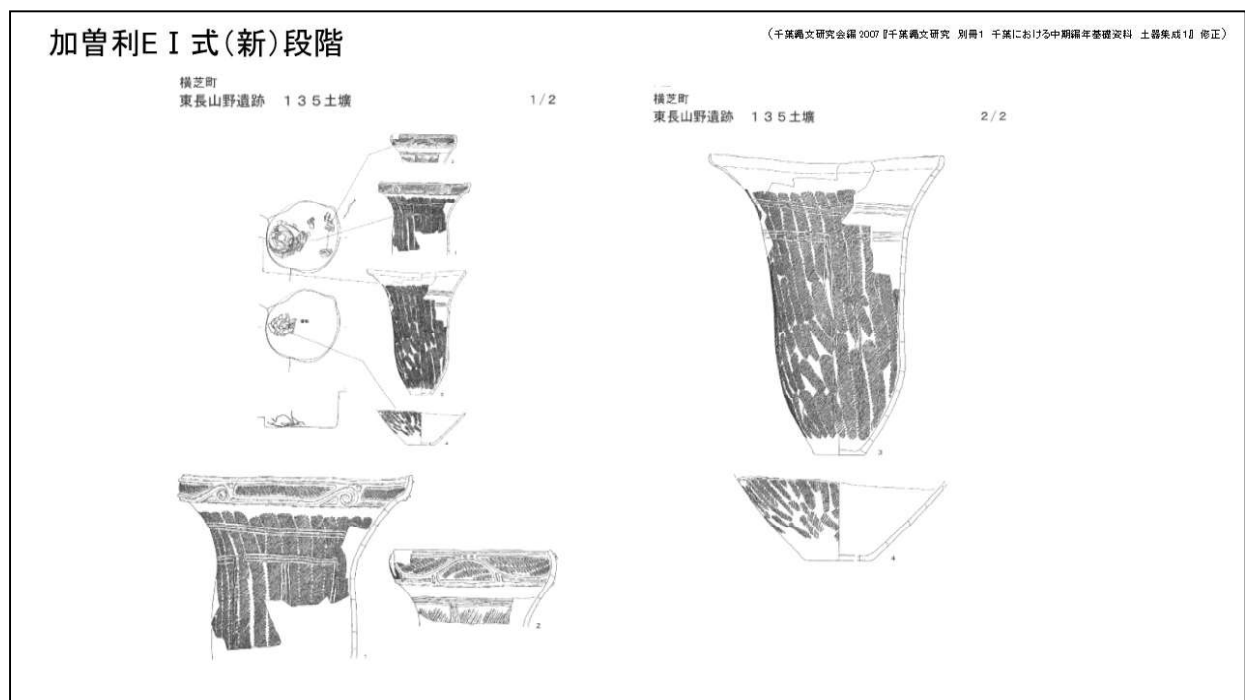
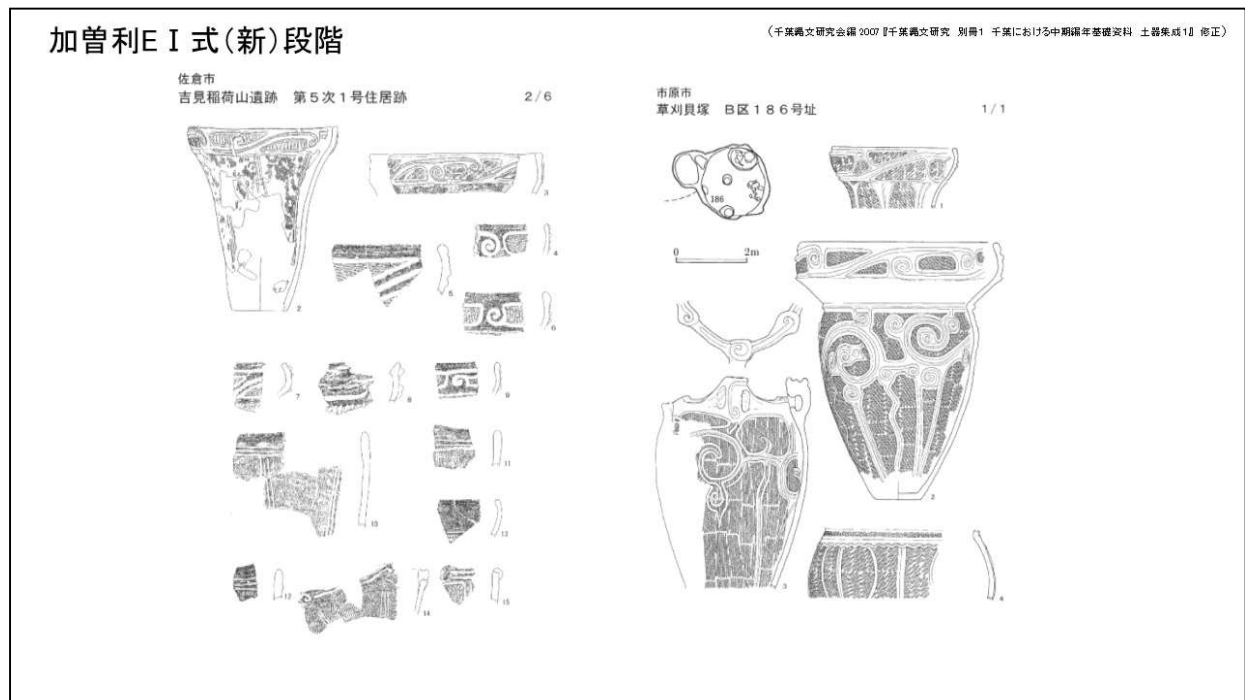
- 地文 縄文が主である。
- 口縁部 縦位沈線が施されるものも多く見られる。
把手が残るものが多い。
クランク文・剣先状文・横位の波状隆帯も多く見られる。
つなぎ弧状の表現や沈線による渦巻文がやや少ない。
- 頸部無文帯 少ない。
- 胴部 懸垂文が施されないものも多い。
隆帯による懸垂文は極めて少ない。沈線によるものは古い段階からある。
- 西関東と比較すると
E1式 房総にも多い。
E2式（沈線による渦巻文＋懸垂文） 房総では西関東と比較するとやや量的には少ない？

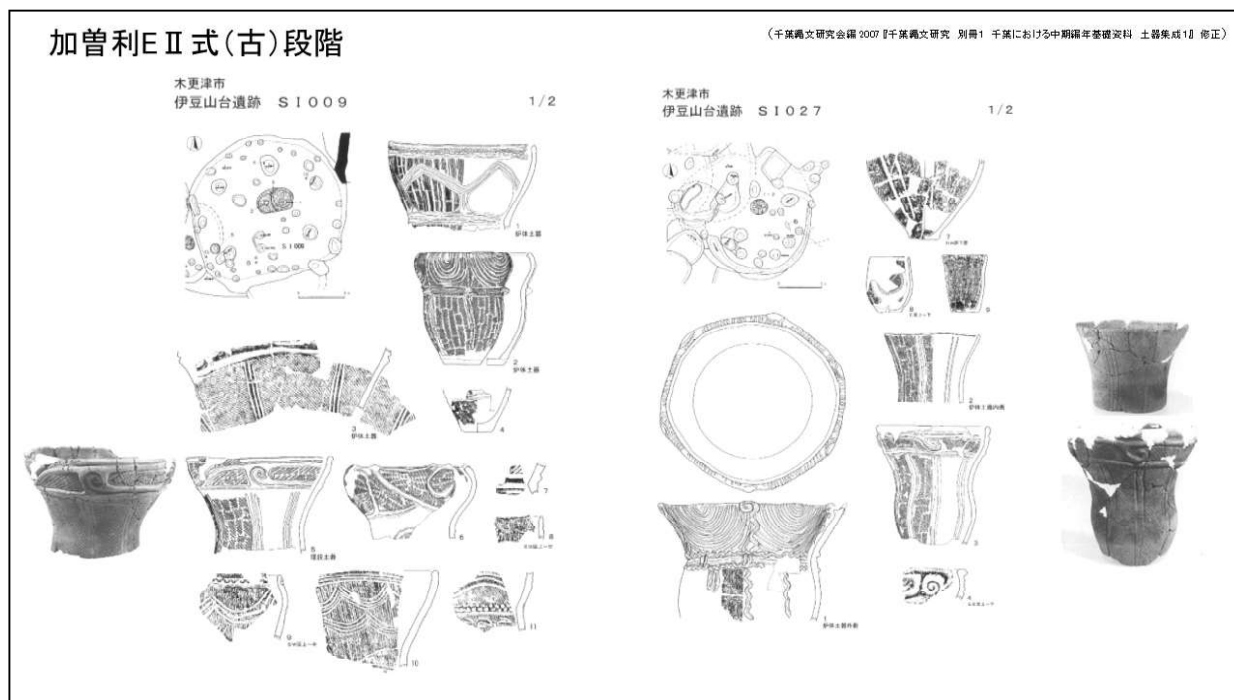
編年対応表

		口唇部	口縁部	頸部	胴部	地文	新地平編年	アラビア区分	
勝坂・阿玉台末/加曽利EⅠ									
房清以前	EⅠ（古）	大型の把手	1～2本隆帯によるクランク状・横S字状		懸垂文 隆帯・沈線・無文	擦糸少・縄文 口縁部縦位沈線あり	10 a期	E1	
	EⅠ（中）	口唇部に小型渦巻	区切り渦巻文 棘状・剣先文が伴うもの多い （古）半渦巻文 （新）渦巻文	区画するもの・無文とするものもある	懸垂文 隆帯隆・沈線・無文	縄文	10 b期 10 c期		
	EⅠ（新）		長方形区画		2～3本単位の沈線		縄文	11 a～ 11 c期	E2
房清縄文	EⅡ（古）		長方形区画		2～3本単位の沈線間を 磨減す		縄文	12 a期	E3
	EⅡ（新） 古組	波状突起あり	渦巻文と楕円区画が交互に入組む 円文あり		房清縄文等		縄文	12 b期	
	EⅡ（新） 新組	波状突起あり	渦巻が弱く大型化、楕円区画が主		房清縄文等が幅広化 逆U字状・渦巻状文様が伴い		縄文		
吉井城山を伴う	EⅢ								







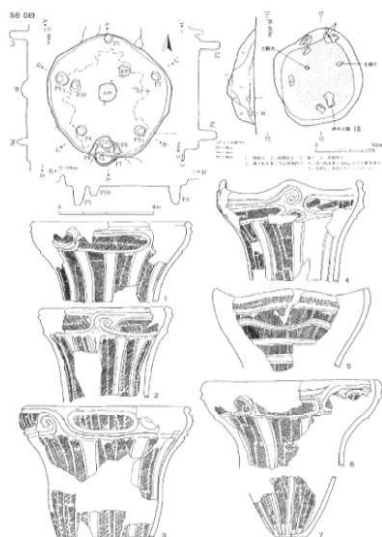


加曽利EⅡ式(新)段階

(千葉県研究会編 2007 『千葉県文化研究 別冊1 千葉における中期縄文基礎資料 土器集成1』 修正)

市原市
有吉北貝塚 SB049住居跡

1/3



松戸市
子清水貝塚 241号住居跡

1/1

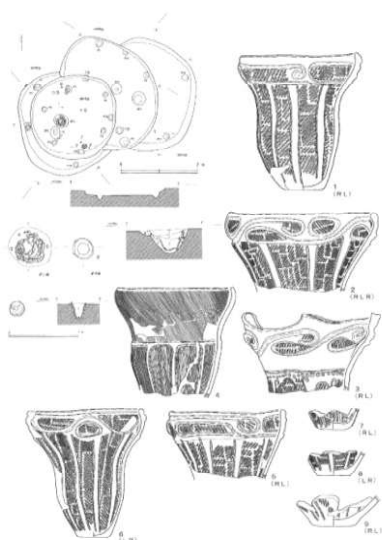


加曽利EⅡ式(新)段階

(千葉県研究会編 2007 『千葉県文化研究 別冊1 千葉における中期縄文基礎資料 土器集成1』 修正)

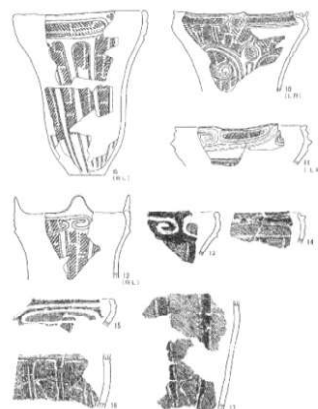
木更津市
台木A遺跡 007号住

1/1



木更津市
台木A遺跡 004号住

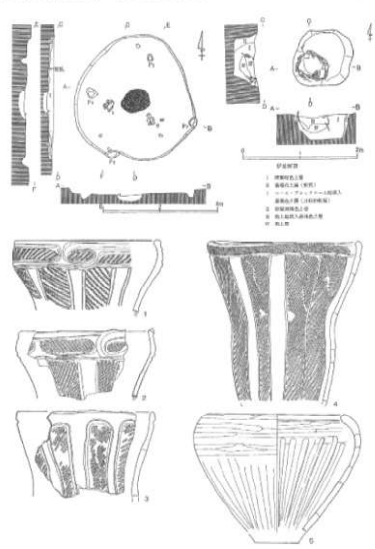
2/2



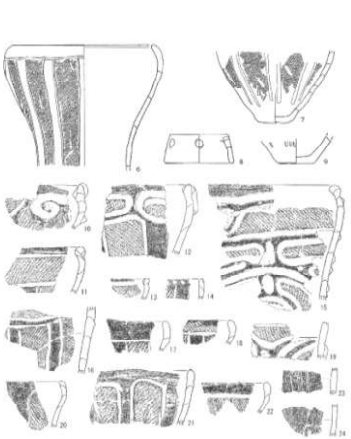
加曽利EⅡ式(新)段階

(千葉県研究会編 2007『千葉県研究 別冊1 千葉における中期福年基礎資料 土器集成1』 南正)

千葉市
中野僧御堂遺跡 第6号住居址 1/2



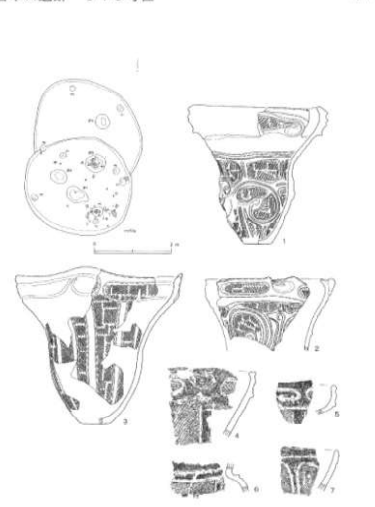
千葉市
中野僧御堂遺跡 第6号住居址 2/2



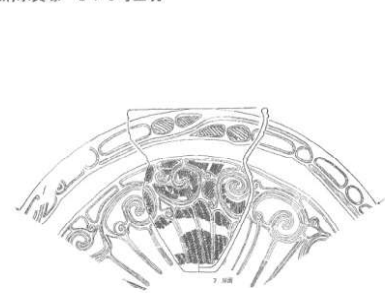
加曽利EⅡ式(新)段階

(千葉県研究会編 2007『千葉県研究 別冊1 千葉における中期福年基礎資料 土器集成1』 南正)

木更津市
台木A遺跡 019号住 1/1



松戸市
子と清水貝塚 876号土坑



編年対応表

		口唇部	口縁部	頸部	胴部	地文	新地平線年	アラビア区分
膝版・阿玉台末/加曽利 E I								
磨湾以前	E I (古)	大型の把手	1～2本階等によるクラシク状・横3字状		懸垂文 階等・沈線・無文	擦糸少・縄文 口縁部縦位沈線あり	1 0 a 期	E 1
	E I (中)	口唇部に小型渦巻	区切り渦巻文 棘状・剣先文が伴うもの多い (古) 半渦巻文 (新) 渦巻文	区画するもの・無文とするものもある	懸垂文 階等・沈線・無文	縄文	1 0 b 期 1 0 c 期	
	E I (新)			長方形区画		2～3本単位の沈線	縄文	1 1 a～ 1 1 c 期
磨湾縄文	E II (古)		長方形区画		2～3本単位の沈線間を磨湾す	縄文	1 2 a 期	E 3
	E II (新) 古相	波状突起あり	渦巻文と横円区画が交互に入組む 円文あり		磨湾縄文等	縄文	1 2 b 期	
	E II (新) 新相	波状突起あり	渦巻が弱く大型化、横円区画が主		磨湾縄文等が縮小化 逆U字状・渦巻状文様が伴い	縄文		
吉井城山を伴う	E III							